



新しい園生活に慣れて来た子どもたち、園庭のあそびの時間では色とりどりのカラー帽子が華やかに咲き乱れております。これが本来の様子です。

スクールバスは相変わらずどのコースもガランとしたままの運行です。バスの時間は子ども同士のあそびの時間でもあり、育ちの場でもあります。

対策はしっかり取っております。どうぞ活用してください。

■お当番はその日のクラスメイトを代表して担任のお手伝いをする活動です。朝の会と帰りの会と言う節目にはクラスをまとめる大切な役目があります。

前ならえ!」などと号令をかけます。

男女2列になる時は、それぞれ先頭に立ちます。

「おとうはんさん!」と呼ばれて意気揚々です。

左肩に「当番バッジ」を付けて誇らしげです。

「バスノート」と言う連絡帖があります。家庭から寄せられたコメントを記して担任へ連絡するものです。

朝10時すぎ「オハヨウございます。バスノート持ってきました!」とひとり、午後1時すぎ「こんにちはOΔO組です。バスノートください!」とひとりが職員室へやって来ます。のほみと年少組のおじいちゃんにとっては大きな試練ですが、乗り越えるべく頑張っています。

その他色々あります。クラス単位でトイレ移動するたびに「背の順おなごび!ちいさい



■子どもたちの「根っこ育ち」を大きな目標にしてありますが、その一環として子どもたちの「やる気」即ち「意欲」を育てております。

決して簡単に育つものではありません。じっくりと時間をかけて育てております。

子どもの特性としての「真似から覚える」という特性を活用し、その様子を見つめることで気持ちや意欲を大切にしながら、「やる気」を引き出しあげます。

年長児たち、順調に育って来ます。幼い年長児たちをお手本に年中児たちと後に続いており、やがて年少児とのぼみさんたちも続きます。詳しくは後日。

(心の育ちシリーズ)

月齢はあきらめない

赤ちゃんの月齢は、生まれ最初に視覚や聴覚といった「感覚」の部分が発達します。この頃に大事なのが「愛着形成」です。笑顔で顔を見ながら抱きしめてあげると月齢の発達にとても良いのです。ですから、生後半年から絵本の読み聞かせはとて交効果があります。こう言っているのは月齢医学者 瀧 靖之先生で、次のようにも。

2歳~3歳になると外の世界に興味を持ちはじめ、知的な好奇心がどんどん芽生えてくるので図鑑など効果的です。この知的な好奇心と言っているのは月齢にとって大事なことです。

3歳~5歳になると運動に関わる部分の発達がピークを迎えます。この頃から器楽演奏や細かい体の動きを伴う運動、バレエや卓球を始めると非常に伸びると言われております。

8歳~10歳は英語など外国語の習得に良い時期です。少しづつで良いので外国語などを聞く機会を与えてあげてくださいね。

このように月齢には何かを始めるタイミングがあります。そう10歳になったから手遅れではないかと思われがちですが、何歳から何を始めても確実に伸びます。30歳からでも「70歳からでも遅い」と言うことはありません。

脳には「^{かそせい}可塑性」と言って、脳が自らを変化し成長させる能力を持っているからです。

可塑性とは、子どもの頃が一番高く、歳をとるに従って次第に下がって来るのです。月齢は何歳になろうと使えば使うだけどんどん進化しているのです。

月齢はあきらめないのです...と。